緑の架け橋

会報第 26 号
2015 年 09 月２０日
日中緑化交流基金助成事業
IFCCプロジェクト代表：佐藤晴男
協賛団体：NPO法人アジアンロード

寧夏・固原市、内モンゴル・多倫県で３件の植林事業を実施！

緑の架け橋プロジェクト２０１４年で区切りをつけましたが、ＩFCCでは「今」だから草の根交流で「日中の緑の架け橋を」と呼びかけ、NPOアジアンロードを推進協賛団体として日中緑化植林活動を継続することになりました。

～一滴が友好の大河へと繋がるように～

寧夏・固原市の第一期事業地　2015・5・24

「今」だから緑の架け橋を

2002 年 11 月緑の架け橋推進センター設立し、その後推進母体の改編を行いながら足掛け１３年となりました。

これは日中緑化交流基金の助成を得た事業主催・ＩＦＣＣ国際友好文化センターの呼び掛けによるものです。

2008 年 11 月、緑の架け橋推進センター解散。その後、「緑の架け橋」の活動は、事業主催の IFCC 国際友好文化センターの下で「緑の架け橋プロジェクト」として継続され、2014 年まで９つのプロジェクトを実施、終了。累積 205 人が参加。

今期（2014 年度 11 月開始）から、NPO アジアンロードを推進協賛団体として内モンゴル２ヶ所、寧夏回族自治区１か所を開始。

去る５月 22 日から寧夏回族自治区固原市、７月２４日から内モンゴル多倫県で２件をそれぞれ実施。

IFCC は「今」だから、尚、継続していきたいと思っています。

内モンゴル・多倫県の蒙京津冀プロジェクト　2015・7・25

本会報は会員以外にも送付しております。趣旨協賛いただける場合、同封の郵便振込用紙にて、2015 年度（2015 年 11 月～2016 年 10 月）活動へのご協力をお願い致します。

IFCC 国際友好文化センター
〒162-0801 東京都新宿区山吹町 333 辻ビル 405
TEL.03-3268-4387　　FAX.03-3268-6079
口座：中央労働金庫市ヶ谷支店（普)0858119　　郵振：00130-9-425994

会報は事業主催（ＩＦＣＣ）の植林プロジェクト特集となります

2015 年度（21 回）植林緑化派遣団活動

日中青年寧夏固原市生態緑化モデル林（新規）・開工式への参加報告

実施日：2015 年 5 月 22 日～25 日
岩手県　木幡英雄

5 月 21 日（木）事前学習会

都内「ルポール麹町」にて、佐藤団長、ＩＦＣＣ鎌田事務局長から今回の概要について説明を受けた。私は、今回の参加にあって、林業関係者として、中国内陸部の大変乾燥した土地にどのように植林が行われているのか、また、事前資料で見せられた寧夏紅寺堡での 2002 年の砂漠から 2014 年の立派なポプラ林が形成されている姿をこの目で確かめたいという思いで今回参加した。

5 月 22 日（金）羽田空港⇒北京空港⇒銀川市

出発前、利用者の少ない早朝の羽田空港国際線ターミナルを満喫しながら、佐藤団長の中国での植林活動での苦労話を聞いた。「植林箇所の中には黄河の氾濫域にあたるところもあり、10 数年に一度の割合ではあるが、ひとたび氾濫すると平坦な土地であるから水がなかなか引かないため、粘土質できめの細かい粒子の土質が形成される。そこに木を受けるのだから、掘るときにはコンクリートのような硬さだし、例え植えても根が呼吸できないほどの厳しい環境だった。当時の参加者の中に林野庁の方もおり、根の活着に向け、土質から研究されていた」などの話を伺うことができた。

羽田空港から 3 時間ほどで北京空港に到着し、中国国際青年交流センターの羊さんとＩＦＣＣ北京事務所の劉さんの出迎えを受けて、銀川空港に向けて乗り継ぎした。

午後 3 時過ぎに銀川空港に到着し、地元青年連合会からの出迎えを受けて、車でホテル「銀川悦海賓館」へ移動した。その車中で、今回の移動行程の 2 日目と 3 日目を交換する旨の変更を告げられた。

銀川悦海賓館に到着し、寧夏回族自治区青年連合会 趙 書記 及び 丁 副書記から盛大な歓迎を受けた。その会話の中で、寧夏における佐藤先生の功績は大きく、共に汗を流した青年団は、緑化された都市を見て常にその重要性を認識していると先生を讃えていた。また、その植林活動への取り組みについて「生態建設」という言葉を使っていた。この言葉については、自然に対して畏敬の念を持つ日本人にとっては「おこがましさ」を感じてしまい、その真意について明日以降、現地を見て考えたいと思った。

5 月 23 日（土）中寧県生態緑化モデル林視察

2010年に終えた寧夏・中寧県の事業地　2015・5・23

ホテルを出発して、銀川から高速道路に乗り中衛市を目指した。銀川市の市街地を外れても車中から見える景色には、新緑の木々や田畑が目立ち、その緑の多さに驚いた。その木々も等間隔で似た樹高でもあるから植林されたものであることは一目瞭然だった。同行の劉さんからも、今の季節が一番いい時で、植林事業の季節は芽吹き前と秋に行っているので、木々が葉をつけた状態をあまり見ていないと説明を受けた。そして、車中から流れている景色の場所は、植林プロジェクトの事業地ではないので、地域として継続して植林が行われていることがうかがい知れた。

さらに車を走らせ、黄河流域から外れると、荒涼とした大地も現れ、そこには風力・太陽光発電施設が一面に広がっており、日本とのスケールの違いに舌を巻いた。しかも、その荒涼とした大地でも所々で植林が行われている箇所も見られ、緑化に対する意識の高さを感じた。

中衛市に到着し、5 月にオープンしたばかりの黄河博物館と通湖草原を視察した。黄河の畔に建てられた黄河博物館では、水滴をモミュメントにした建物の中に、黄河流域のミニチュアやその流域の文化・歴史、自然史などが展示されていた。その施設の周辺でも植林が行われており、ようやく近くで見ることができた。その植林方法は、木々の間には黒く細いチューブを張り巡らせ、そこから滴下させ水やりをしていることと、その水や雨水を蓄えるために格子上の轍と窪地を形成しているという手の込みように驚かされた。その後、移動中で見える植林地にはそのようなチューブを所々で見かけ、この総延長は相当な長さになるのではと感じた。内モンゴルとの境にある通湖草原では、今にも道を飲み込みそうな砂の山や、水が干上がった場所には白く塩が現れているなど、砂漠化・塩害の様子をうかがい知れた。

補植は今も続けられている。記念碑の前で

午後 3 時ごろ、本日の目的地である中寧県生態緑化モデル林に到着し視察をした。参加者名が刻まれた石碑を見て当時の状況などを話されていた。当時は、植林地周辺に何もなったが、今では植林地の周りをその数倍の面積で経済林としてのクコ畑が形成され、農夫たちが世話をしていた。もう、１、２年もすれば本格的な収穫が始まり、経済収入が生まれ、地域経済と生活水準の向上が期待できる景色となっていた。

5 月 24 日（日）固原市生態緑化モデル林開工式典

宿泊した中寧県の中寧賓館を朝 8 時半に出発して、今回の目的地である固原市へ向かった。高速道路をひたすら南下していくコースで、途中、15 年前に植林活動を開始した紅寺堡の近くを通過した。かつて、紅寺堡での事業では、高速道路はおろか道の整備も行き届いてはおらず、ボコボコ道を半日かけて移動したそうで、紅寺堡ＩＣできるほどの変わりようを想像もできなかったそうだ。

午前 11 時過ぎに固原市に到着し、開工式の事業地へ向かった。式典会場では、固原市 楊副市長と地元大学生ら出迎え、式典及び記念植樹を行った。

佐藤団長は式典の挨拶で、「平和問題と環境問題には、国境、人種、宗教等すべてを超えて取り組む必要がある。ことに環境問題については、この植林プロジェクトを通じて、15 年間で、5 市中 4 市の 8 か所に、訪問団として総勢 200 名以上、植林面積として 2,000ha 以上を行うことができた。そして、この活動は、単に砂漠を緑化することで生態系を改善するだけでなく、地域の生活改善へつなげていくことが重要であると感じた。また、この事業を通じて、自治政府や党の責任指導者、何よりも地元の若い人たちが熱心に熱意を持って受け応える姿に喜びを感じた。中国の広い大陸からすれば小さな点にすぎないが、やがて線になり、そして森になると信じている。さらに、活動を通じて寧夏自治区の方との友人関係を大きく広くできている。このように植林活動を通じた友好の絆を大きく広く、そして未来に向けて育てていきたい」と話された。

この挨拶を聞き、植林を行った後、改めて周辺の自然をじっくり観てみると、そこには多くのトンボが飛び交い、野花が可憐に咲き、その花粉を求めて虫たちが盛んに飛び交い、遠くでは鳥のさえずりを耳にすることができた。ここには生態系が形づくられてきていることを五感で感じることができた。生態建設という私には乱暴に聞こえた言葉だった、何もしなければ荒涼とし、砂漠に飲

み込まれてしまうこの厳しい土地において、このように世代を越え、民族を越え、国を越え、共に手を取り合い行った植林活動という行為がその言葉の意味なのだと感じた。そして、ここに来るまでに目にした緑の大半は、人の手によるものであったことを思い起こせば、点が線に、線が面にとしっかり結果として表れていること、関わられた人々のただならぬ努力とその大きさに脱帽した。

式典後、固原賓館で楊副市長と昼食をとり、須弥山博物館と須弥山石窟を視察した後、初日の銀川市へ移動した。

5 月 25 日（月）銀川空港⇒北京空港⇒羽田空港

移動が大半を占めたが行程だったが、大変充実した内容を過ごすことができた寧夏回族自治区に別れを告げ北京へと向かった。北京では、中国国際青年交流センターを表敬訪問し、同センター 洪 桂梅 副主任らと会食した。

今回は佐藤団長と私の２名だけであったが、どの視察先でも自治政府や青年連合会の方々から素晴らしい歓迎を受けた。日常で耳にする政治的な話題は明るいものではないが、今回のように、直接目で見て、話を聞くことができ、いかに自分の視野が狭く、他方を理解するということの大切さを強く感じる視察だった。

最後に、固原市でのプロジェクトが成功することを心から願い、また、今回の機会を与えていただいてＩＦＣＣ、現地を同行していただいた劉さん、羊さん、そして佐藤団長に心から感謝を申し上げ活動報告としたい。

蒙京津冀青少年生態緑化モデル林プロジェクト、中日青年灤河源生態緑化モデル林事業が内モンゴル・多倫県でスタート

～2015 年植林と草原の風にふれる旅」に参加して～

実施日：2015 年 7 月 24 日～26 日
特定非営利活動法人アジアンロード
副理事長　木原　勇

2015 年 7 月 24 日（金）～29 日（水）の期間、中国・内蒙古自治区シリンゴル盟多倫県にて「中国青年灤河源生態緑化モデル林事業」「蒙京津冀青少年生態緑化モデル林プロジェクト」にアジアンロードから、理事長宮秋道男、副理事長木原勇、会員穴澤結花子の３名が参加した。

今回は、植林と友好の旅として通算 21 回目であり、IFCC 国際友好文化センターとしては「IFCC 緑の架け橋プロジェクト」、アジアンロード企画では、モンゴルの風にふれる」をそれぞれのテーマとして位置づけた。

呼和浩特（フフホト）市の内蒙古大学学生もボランテイア参加した

7 月 24 日午後、搭乗した飛行機が北京空港上空の混雑を理由に一時間程、遅延となり着陸。

入国審査を過ぎ、ゲートには、劉憲良 IFCC 北京事務局長と中国国際青少年交流中心の崔さんが、首を長くして出迎えてくれた。

劉さんが「北京暑い?でも、東京も暑い!」「これから多倫県まで車での移動となります。高速道路を使いますが、8～9 時間位掛かります。着いた頃は暗くなっています」と。

我々の移動のために、大きな RV 車を手配していただき出発。最新の乗用車にナビゲーションもついていたが「地図情報が古く、最近の高速道路は出ていないですね」と何だか不安な出だしで出発。

劉さんの携帯電話の地図情報を頼りに、途中、ガソリン補給、トイレ休憩をはさみ北上。

北京国際空港を出てから、多倫県に到着したのは、夜 8 時を回っていたのである。

25 日、午前中は、中日青年多倫県生態緑化モデル林事業としての取り組みを伺った。

多倫県の趙宏・県長とともに

最初に県長趙宏さんから、歓迎のあいさつがあり、続けて、格日楽図内モンゴル自治区中国国際青年連合会秘書長から現状の話をうかがった。

基金ができ、植林が始まってから、今日までの取り組み、さらに今後の予定について、資料を基に説明。

実際の現場については、張連根林業局長から「植林が始まってから、生態系に変化がおこってきている」「松を植林している。2～3 年はあまり成長しないが、4 年過ぎると、成長する姿がよくわかります」と報告があった。

25 日、午後からは、植林を行っている現場に移動。

そこには、20 名程度の若い人の姿があり、劉支局長に尋ねると「彼等・彼女等は、休みを利用しここで活動を手伝っている」と分かった。実際、何人かに聴いてみた。若者の多くは、呼和浩特（フフホト）市（内蒙古自治区にある首都）にある、内蒙古大学の学生であった。

学生が、多倫県に帰ってきたことがわかったので、呼びかけて、一緒に手伝ってくれているそうだ。それにしても、女子の多いことに、びっくり。

このように、若い世代が植林活動に自主的に参加していることに、その意識の高さや主体的な動きに、改めて感服。

その学生とともに、30 本程の苗木を植えるために、等間隔に穴を掘り、苗木を運び下し、土で埋め、水をバケツ一杯かける作業を行った。

砂漠地区ではなく、草原地区ではあったが、元々砂漠だったところを草原化し、そこに植えたのであった。

この一つ一つ小さな作業が積み重なり、活着することで、砂漠化が食い止められるのであった。

参加者と植栽事業地

日程の最終日、北京市内にある中国国際青年交流センターにて、王希宏部長・羊強振科長と面談。

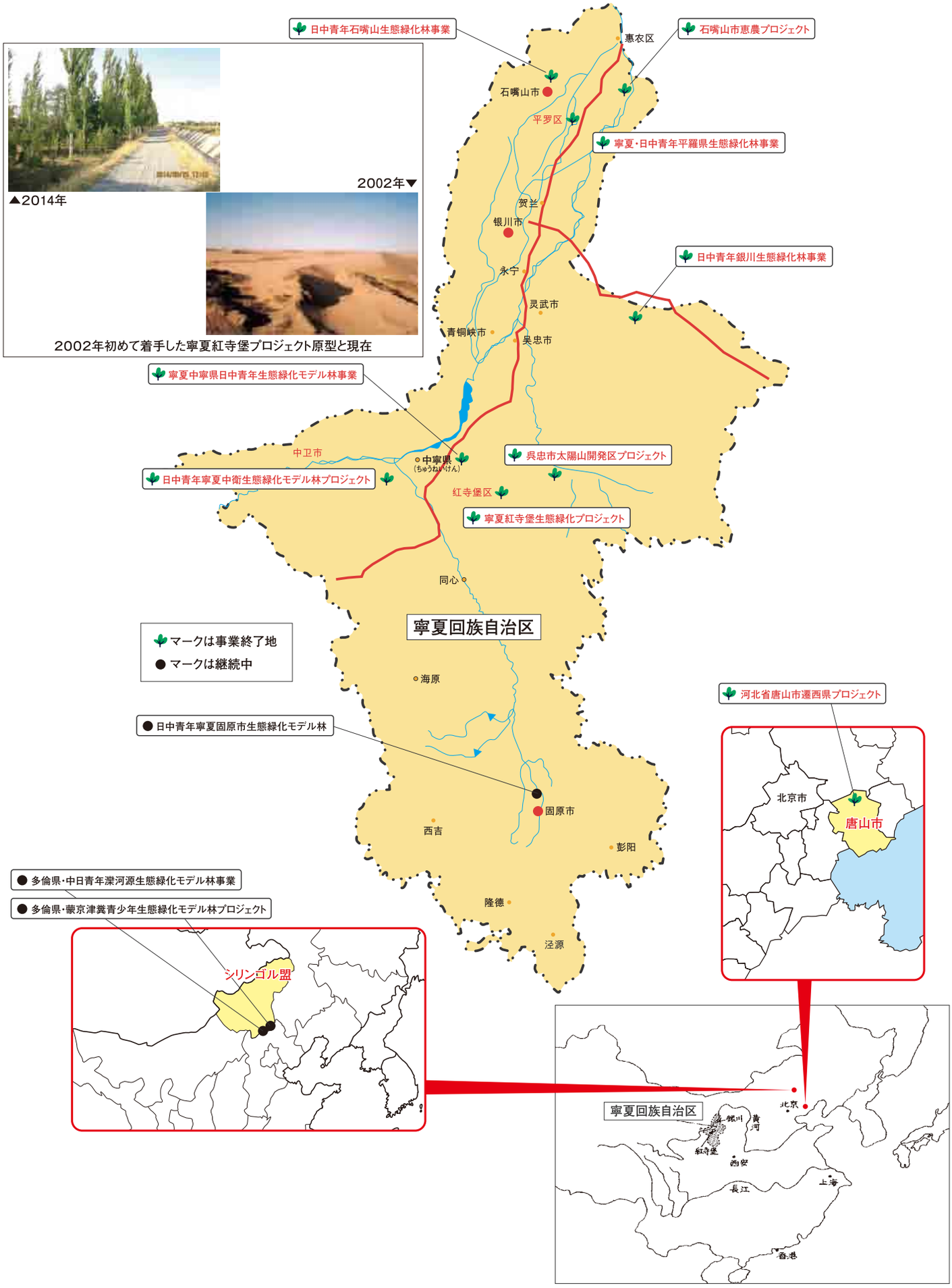
改めて、訪問の意義とこれからのかかわり方に返礼があり、今後も継続し、連携していくことをお互いに確認をした。

王部長は「全国 30 か所でこのような取り組みがあります。特に多倫県は、最も北京に近い。ここで砂漠化を止めなければ、北京も砂漠化の影響がでる」と、強調。

ぜひ、来年も多くの日本人に声をかけ、一緒に苗木を植える活動で汗をかき、友好を深めたいと認識し、空港への帰路についた。

2015 年度（21 回）派遣団参加者		
佐藤晴男	固原市	ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ代表
木幡英雄	固原市	岩手
宮秋道男	多倫県	NPO 亜洲道路
木原　勇	多倫県	NPO 亜洲道路
穴澤結花子	多倫県	NPO 亜洲道路
劉憲良	固原市・多倫県	IFCC 北京事務所

プロジェクト名		
寧夏紅寺堡生態緑化プロジェクト（済）	2002年度～2004年度	330ha
寧夏・日中青年平羅県生態緑化林事業（済）	2004年度～2006年度	290ha
日中青年寧夏中衛生態緑化モデル林事業(済)	2005年度～2007年度	300ha
日中青年銀川生態緑化林事業（済）	2007年度～2009年度	180ha
日中青年石嘴山生態緑化林事業（済）	2007年度～2009年度	250ha
寧夏中寧県日中青年生態緑化モデル林事業（済）	2008年度～2010年度	300ha
寧夏呉忠市太陽山開発区生態緑化モデル林事業(済)	2010年度～2012年度	210ha
日中青年石嘴山市恵農区生態緑化モデル林事業(済)	2010年度～2012年度	220ha
日中青年河北遷西県生態防護林（済）	2011年度～2013年度	157ha
日中青年寧夏固原市生態緑化モデル林（新）	2014年度～2016年度	84ha
蒙京津冀青少年生態緑化モデル林プロジェクト（新）	2014年度～2016年度	99ha
中日青年灤河源生態緑化モデル林事業（新）	2014年度～2016年度	180ha

2014年度（2014年11月～）

中国植林緑化活動協力事業
寧夏回族自治区・河北省唐山市・内モンゴルシリンゴル盟での事業実施図